

韓国農林畜産食品部プレスリリース 2019年12月4日付

坡州市（パジュシ）民間制限線内の野生いのしし弊死体から ASF ウイルス検出
（野生いのしし 37 例目）

<http://www.translatetheweb.com/?ref=IE8Activity&a=http%3A%2F%2Fwww.mafra.go.kr%2Fmafra%2F293%2Fsubview.do%3Fenc%3DZm5jdDF8QEB8JTJGYmJzJTJGbWFmcmElMkY2OCUyRjMyMjE5MyUyRmFydGNsVmllldy5kbyUzRmJic0NsU2VxJTNEJTl2cmdzRW5kZGVtdHllM0QlMjZiYnNpCgVuV3JkU2VxJTNEJTI2cGFzc3dvcmQlM0QlMjZzcmNoQ29sdW1uJTNEJTI2cGFnZSUzRDElMjZyZ3NCZ25kZVN0ciUzRCUyNnJydyUzRDEwJTI2aXNWaWV3TWluZSUzRGZhbHNlJTI2c3JjaFdyZCUzRCUyNg%253D%253D>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は京畿道(キョンギド)坡州(パジュ)市郡内面(クンネミョン)で発見された野生いのしし弊死体から ASF ウイルスが検出されたと 12 月 4 日明らかにした。

○弊死体は 12 月 3 日午後 1 時頃、坡州(パジュ)民間制限線内にある畑で住民によって発見された。坡州市(パジュシ)は ASF 標準の行動指針により試料を採取して現場消毒と弊死体埋没を措置した。

○国立環境科学院は 12 月 4 日、弊死体試料で ASF ウイルス陽性確定診断の結果を関係機関に通知した。坡州(パジュ)ではこれで 14 例目の野生いのしし ASF 陽性の確定診断となり、全国的には 37 件に増えた。

□国立環境科学院生物安全研究チーム長は“今回の感染弊死体発見地点も感染・危険地域を遮断している 2 次フェンスの中で、当分追加発見が続くだろう”と話した。

韓国環境部プレスリリース 2019年12月3日付

坡州市（パジュシ）13例目、漣川郡（ヨンチョングン）9例目、野生いのししでのASFウイルス検出事例は全国累計36例

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=title&searchValue=%EB%B0%94%EC%9D%B4%EB%9F%AC%EC%8A%A4&menuId=286&orgCd=&boardId=1126205&boardMasterId=1&boardCategoryId=39&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は京畿道（キョンギド）坡州（パジュ）市長湍面（チャンダンミョン）と漣川郡（ヨンチョングン）新西面（シンソミョン）で発見された野生いのしし弊死体2体からASFウイルスが検出されたと12月3日明らかにした。

○坡州市（パジュシ）、長湍面（チャンダンミョン）弊死体は11月30日午後1時ごろ農耕地で農業従事者が発見し、漣川郡（ヨンチョングン）新西面（シンソミョン）弊死体は12月2日10時ごろ登山中の住民によって発見された。申告を受けた坡州市（パジュシ）と漣川郡（ヨンチョングン）は試料採取後、野生いのししASF標準の行動指針により死体を埋却処理した。

○国立環境科学院は12月3日午後2時ごろASFウイルスを確診と結果を関係機関に通知した。これで坡州（パジュ）で13件、漣川（ヨンチョン）で9件のASF陽性の確定診断例となり、全国的には36件になった。

□国立環境科学院生物安全研究チーム長は“今回の感染弊死体発見地点も感染・危険地域を遮断している2次フェンスの中で、当分追加発見が続くだろう”と話した。

韓国環境部プレスリリース 2019年12月1日付

官軍合同捜索中に発見、全国で野生いのししASF検出事例は34件に

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=title&searchValue=%EB%B0%94%EC%9D%B4%EB%9F%AC%EC%8A%A4&menuId=286&orgCd=&boardId=1122235&boardMasterId=1&boardCategoryId=39&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は12月1日京畿道(キョンギド)坡州市(パジュシ)郡内面(クンネミョン)民間制限線内で発見された野生いのしし弊死体からASFウイルスが検出されたと明らかにした。

今回の弊死体は11月29、日感染・危険地域を遮断している坡州(パジュ)2次フェンス内で官軍合同弊死体精密捜索中発見された。坡州市(パジュシ)は野生いのししASF標準の行動指針により弊死体を処理し現場を消毒した。

国立環境科学院は12月1日、ASFウイルス陽性の確定診断結果を関係機関に通知した。坡州(パジュ)でASFが確診したのは今回が12回目であり、全国的には全34件が確定となった。

国立環境科学院生物安全研究チーム長は、"2次フェンス内官軍合同捜索が継続されており、弊死体発見とウイルス検出事例がさらに増えるだろう"と話した。

韓国環境部プレスリリース 2019年11月30日付

漣川（ヨンチョン）で9件、
全国で野生いのししASFウイルス検出事例は33件に

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=title&searchValue=%EB%B0%94%EC%9D%B4%EB%9F%AC%EC%8A%A4&menuId=286&orgCd=&boardId=1121405&boardMasterId=1&boardCategoryId=39&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は11月30日京畿道（キョンギド）漣川郡（ヨンチョンゴン）新西面（シンソミョン）民間制限線内で捕獲した野生いのししからASFウイルスが検出されたと明らかにした。

○今回ASFウイルスが検出された野生いのししは、11月27日午後10時30分頃、漣川郡（ヨンチョンゴン）南方限界線から約0.9km離れた農耕地で民官軍合同捕獲チームによって銃器で捕獲された。漣川郡（ヨンチョンゴン）は11月28日、ASF標準の行動指針により現場消毒と弊死体埋却の措置が取られた。

○国立環境科学院は11月30日、野生いのしし血液試料でASFウイルス陽性の確定診断結果を関係機関に通知した。漣川郡（ヨンチョンゴン）で9番目に野生いのししのASFが確定診断となり、全国的には33件に増えた。

□環境部ASF総合情報室総括チーム長は“今回の捕獲地点は漣川邑（ヨンチョンウプ）2次フェンスから約7.4km離れていた”として、“迅速にフェンスを追加設置して、フェンスが完了する時まで捕獲地点近隣で銃器捕獲を制限する計画だ”と話した。